

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	札幌市はるにれ学園			
○保護者評価実施期間	令和6年12月6日 ～ 令和6年12月24日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数)	17名
○従業者評価実施期間	令和6年12月6日 ～ 令和6年12月24日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数)	14名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの状況や発達段階に合わせて、生活空間や活動内容を検討し、発達支援を実施している	・子ども1人ひとりに合わせて、写真カードやサイン等を活用し、視覚的にわかりやすく知らせる工夫をしている ・同じ活動を繰り返し行うことで興味を示したり、見通しをもって参加したりできるよう、活動内容や生活空間の工夫をしている	今後も職員研修や勉強会などを実施し、職員のスキルアップを図るとともに、子どもの姿に合わせて、活動内容が固定化しないよう工夫していきたい
2	保護者同士、きょうだい同士が交流する機会を設け、家族支援を行っている	・保護者勉強会を定期的実施し、在園児の保護者同士が学び、交流できる場とした。また、在園児保護者と卒退園児保護者が交流できる機会を設けた ・きょうだいが一緒に参加できる日を設け、きょうだい同士が活動を通して交流できる機会となるよう工夫した	・保護者勉強会については、参加しやすいテーマや内容、適切な交流時間、実施時期、実施回数について検討し、次年度以降も継続していく ・きょうだいの参加についても、実施時期や実施回数などを検証し、次年度以降も継続していきたい
3	開所日数が多い、登園時間が長い、食事提供を行っていることで、生活リズムを整えやすく、食育の推進を図ることができる。また、それらのことを積み重ねていきやすい環境となっている	・見通しを持ち、安心して過ごすことができるよう、1日の流れを大きく変えないよう配慮している ・食事については、家庭での様子を保護者から聞き取り、形態や味付けなどを工夫している。また、繰り返し提供する中で「見る」経験を重ね、興味を示したり「食べてみよう」と思えるよう、献立の工夫を行っている	家庭での姿や食事の様子、園での姿など、保護者と連携を図り、共有しながら、一人ひとりに寄り添った適切な支援を行っていく

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
2	地域の子どもたちと交流する機会の提供	今年度、コロナ禍で一時中止していた保育園との交流を2回実施したが、全員は参加することができず、1年間を通して継続的に実施するには至らなかった	次年度も実施する予定でいるが、より多くの子どもが参加できるよう、交流先の新規開拓や実施方法、回数について検討を進めていきたい